

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月22日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.6】

## 革マル派の潤沢な財政の恐るべき実態！

前号ではJR内の革マル派組織の建設など驚愕の内容について記述したが、今回は、革マル派の資金源などについての記載を紹介したい。「綾瀬アジト」押収資料による分析資料には、革マル派の資金源や財政について、以下の驚くべき記述がある（高木書房・宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跎」より）。

### 革マル派構成員の義務その他

革マル派の資金源は、「労働者活動家のカンパ」と「大学の自治会費」の二本立てとなっており、学生活動家は、原則的にはカンパをしなくとも良いことになっている。

労働者の場合は、各産別および活動家のランク等により額が異なるが、原則として、総支給額（税金のみを除く）から一定の生活費を除いた金額に、ランク別のパーセンテージを掛けた額のカンパが決められている。

このほか、「ボーナスカンパ」や「臨時カンパ」等も徴収されており、平成6年には、東京工藝社（注：革マル派の印刷所）の設備拡張に伴う臨時カンパが提起され、1人10万円以上のカンパが要求されている。

更に、これらカンパ以外にも、「解放」共産主義者」（現在は「新世紀」と改称）の購読料や集会カンパ金等も拠出しなければならず、年間1人あたり100万円以上を組織に納入していると思われるので、労働者活動家は苦しい生活を強いられている。これらのカンパは、納めることによって、「組織の一員」であることの意識付けを行うためとみられるが、カンパ金の捻出に悩んでいる活動家も多数いるものと認められる。

### 財政

財政は、中核派や革労協狭間派等の他派と比べると、かなり安定していると思われるが、その要因は、産別同盟員から、同盟費とカンパが定期的に入ること、JR総連等の労働組合や大学の掌握自治会等からの流入金があること、また、ゲリラ等による支出がないこと等によると思われる。

革マル派は、「創造社」を除き、「解放社」等同派の施設は、昭和57年から平成元年までの7年間に約20億3,000万円で新築したり購入したりしていることから、これをみても同派の財政の豊かさが窺われる。

## 年間何十億円もの資金が極左暴力集団に！

革マル派構成員も多額なカンパで大変だが、それだけ忠誠心が高い強固な組織であるということだ。革マル派の勢力については、既出の政府答弁書では「約5,400人の活動家等を擁しているとみている」としているほか、当該分析資料では「約4,000人（学生約450人、労働者・専従約3,550人）」と記載されている。学生を除く3,500～5,000人の構成員から、仮に、年間1人100万円のカンパが納入されているとすると、その合計は、実に35～50億円と計算できる。当該資料の分析によれば、「共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団」（政府答弁書）に巨額の資金が集まっていることになる！